



一般社団法人 亀岡青年会議所 2020年度スローガン

## 想いを紡ぎ未来を形に

~ Always be a challenger! ~

かめおか新世紀ビジョン2020

「世界に誇る環境先進都市(エコロジックミュージアムかめおか)」の創造



目次

~事業報告~ 8月例会(臨時総会) 9月例会 『KAMEOKA Auto camp Fes』	1
~事業報告~ 第8回理事会・第9回理事会 出向者報告(鍵田直希君)	2
~事業報告~ 京都ブロック協議会 アカデミー事業「リモ謎」 近畿地区協議会 「SDGs Practical Academy」	3
作麼生(そもさん) (谷口 肇委員の巻) 仙人掌	4

## 8月例会(臨時総会)



2021年度役員予定者メンバー

八月二十五日(火)十八時三十分、二〇時にて、八月例会(臨時総会)を、感染対策をしっかりと行い、おもてなしの宿溪山閣で開催しました。

八月例会では、コロナ禍での、収支補正予算や、定款一部変更などに加え、二〇二一年度に向けて、理事長をはじめ、各理事などの選任も行われました。

また、二〇二一年度の活動に向けて組織改革を推し進めていく中、コロナ禍により、更に柔軟な対応が求められています。メンバー一人ひとりの意見が、組織の構造や運用方法に変化をもたらし、より良い組織運営の構築に繋がると確信しています。

例会後の懇親会では、ソーシャルディスタンスの下、宴の席を設けることができ、楠理事長の動画上映など、ひと時の楽しい時間を過ごすことができました。

## 9月例会「KAMEOKA Auto camp Fes」



九月十二日(土)保津川河川敷広場において、九月例会が開催されました。

本例会は、亀岡市、南丹市在住の方を対象に、コロナウイルス感染拡大防止対策の自粛疲れを解消して頂くため、「KAMEOKA Auto camp Fes」として、二月例会以来の対外事業となりました。担当された人財創出委員会では、前日の朝より準備にかかり委員会メンバーにて万全の準備をして頂きました。当日は天気にも恵まれ、メンバーは早朝より集まり、セレモニー終了後全員で準備に取りかかり、お昼頃に一般参加者を迎えました。今回の例会は、ステージイベントに始まり、保津川に生息する生き物の生体観察や豪華景品が当たるカラオケ大会、ちびっこダンスレッスン、夜には天体観測などイベント盛りだくさんで参加者には終始楽しんでいただけようでした。また食ブースにおいては、(株)ヤマモト様、(株)亀岡給食センター様、渡辺製菓(株)様にご協力いただきバーベキュー以外にもいろいろなお食料や食事を提供して頂きました。残念ながら参加者は予定の半分ほどとなりましたが、参加者からは大好評であった事業は大成功に終わりました。

## 事業報告

### 第八回理事会

八月七日(金)JCLルームにて、第八回理事会が開催されました。本日の理事会には、一般社団法人城陽青年会議所メンバーがオブザーブに来られ、亀岡青年会議所メンバーも気の引き締まる思いで理事会を迎えることとなりました。

報告事項として、例会出席報告、会員拡大報告、十月例会がありました。十月例会では同日開催にて、先輩諸兄姉を迎えて創立四十周年記念式典が行われますので、一同意識統一を図って当日を迎えましよう確認がなされました。

審議事項として、公式スケジュールに関して第六十九回全国大会北海道大会札幌大会がWEBでの開催また卒業旅行は中止と報告がなされました。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中でありますので、大変残念な結果となりました。六月例会開催報告では、初の試みとしてコロナ禍に対応してWEB上で講師例会を開催し、お話しをいただいた内容を編集しYouTubeにアップし市民に事業公開しましたが、各メンバーよりYouTube再生回数が少ないことへの質問が飛び、広報活動をどのようにされてきたかなどを、しっかりと引き継ぎをしていただきたいと意見が出ました。

九月例会事業計画の審議が通過し、コロナ禍で何ができるかを委員会メンバーが思案を重ね、市民が中々出かけにくい時だからこそ自然を有効活用した事業が計画され、役員一同も協力を惜しまないと後押しをいただいた楽しい事業上程となりました。FT修了セミナー事業計画では、亀岡の豊かな資源や環境を理解し、FTメンバーはどのように、亀岡市や亀岡青年会議所にフィードバックできるかを学ぶ事業計画とともに思い出に残る大変素晴らしいFT修了セミナーの事業が審議されました。また、全国大会諸登録料拠出などコロナ禍に対応した補正議案なども無事審議通過することとなりました。創立四十周年記念式典にて発表予定の新中長期ビジョンでは、当日、新中長期ビジョンをどの様に発表するか最終段階を迎えています。これからの十年後を見据えたビジョン策定に会議体メンバー一同頭を悩ましていますが、未来を見据えた素晴らしいビジョンが出来上がるはずと見据えています。

協議事項の十一月例会事業計画では、亀岡市のシンボルであるサンガスタジアム by KYOCERAを使用し、ドローンを使用した事業が上程されましたが、まだ事業の計画性が乏しく不備も多々見られ再構築をお願いしますと意見がなされました。

### 第九回理事会

九月四日(金)第九回理事会が開催されました。本日の理事会には新入会員の伊藤君、近藤君、荒木君をオブザーブに来られました。

報告事項として、例会出席報告、会員拡大報告、七月例会(セレモニー例会)がありました。

審議事項として全国大会がWEB開催になり登録料の変更があったことが挙げられました。そして全国大会では同じポーズをとった写真を一時間以内に写真とメッセージを送り、その数でギネス記録に挑戦することも報告されました。そして、新中長期ビジョンについても大久保副理事長から説明があり様々な意見交換がなされて、おおよその枠組みが出来上がって来ました。十一月例会事業計画では亀岡市交流会館での開催に変更してスポーツクライミングや科学実験、展望台を目指しての登山といった事で成功体験を引き出そうというものになりました。そこでは期待のふくらむような意見交換がなされました。十二月例会(セレモニー例会)では、今年がコロナの影響で様々な事に対して環境や境遇の変化に対応して来た年なので、その対応に敏速に対応して来た経験を引き継いでいけるような事がしたいと説明がありました。そして今年全国大会のように卒業生を祝う場面がこの卒業式しかないのです、記憶に残るような演出をお願いされました。そして初めて理事会にオブザーブした新入会員に感想をいただき理事会を閉会いたしました。

報告事項として、例会出席報告、七月例会(セレモニー例会)がありました。

## 出向者報告

### 京都ブロック協議会

### ブロック大会運営委員会

京都ブロック大会運営委員会に出向してまず鍵田直希です。

亀岡青年会議所八月例会にて、十月二十三日(金)に開催される、ブロック大会PRに大滝委員長をはじめとするメンバーでお伺いしました。

今回のブロック大会は初の試みであり、コロナ禍でもメンバーで交流が出来る方法として、『クラスター』というバーチャル空間にて、今しか出来ない、今までにない体験ができるブロック大会の趣旨を説明させて頂いていただきました。また、大滝委員長の熱い思いを伝え、多くのメンバー皆様の参加をお願いいたしました。

自分も中々経験する事が出来ないバーチャルでの大会運営を楽しみにしていますので、メンバーの皆様全員参加よろしくお願ひします。



# 京都ブロック協議会アカデミー事業「リモ謎」

## 近畿地区京都ブロック協議会

### 新時代のリーダー育成委員会アカデミー事業

京都ブロック協議会新時代のリーダー育成委員会アカデミー事業「リモ謎」がZoomで開催されました。新時代のリーダー育成委員会には、田中聖也君、高杉清明君が委員として出向しております。高杉委員はアカデミー事業の当日を迎える前に予行練習を重ね、マウスを酷使したところ壊れてしまい、慌ててホームセンターに買いに行くアクシデントも発生しておました。

さて、本年度、京都ブロック協議会では一人ひとりが多様な価値観を持つ時代において、組織の力を最大限に発揮するために、組織に属する一人ひとりが主体的、自律的に考え行動できるように、多様な個性を引き出し機能し合わせることを出来る人材を育成するために運動、活動を展開されております。

そこで本年度のアカデミー事業では、フオロワー一人ひとりが主体的、自律的に考え行動することの重要性やそのような能動的フオロワーが生まれ育つ環境を作り出すことのできる「新時代のリーダー」に共感を頂き、参加者の今後の成長や、各組織において新時代のリーダーを育成する意識や機運を醸成する事を目的とし、株式会社IKUSA様の「リモ謎」というWEB上で実施出来る謎解きオンライン型事業という楽しく学びある手法を活用しました。

我々メンバーは事前に行ったエゴグラム診断の結果を基に全二十チームに振り分けられ、フオロワーの非能動的及び能動的な状態、環境を認識して頂き様々な難題を乗り越えゴールを目指しました。

後半のリーダーセミナーではエゴグラム診断の活用方法や四月に各地で三回行われたリーダーあり方検討会の振り返り等、メンバー個々の社業にも活かすことが出来る学びや気づきがあり、環境の作り方を理解することに繋がりました。

WEB上で体験型の事業をするという非常に難しい取り組みで試行錯誤されていたようですが、八月だけでも委員会三回、小委員会十回を開催し委員会メンバー一丸となり事業を終えることが出来たと感無量の報告をうけ、委員会メンバー全員でソーシャルディスタンスを確保し、三密を避けて喜びを分かち合うことができたという大満足の結果となりました。



出向者の高杉清明君



IKUSA

## 「SDGs Practical Academy」

### 近畿地区協議会

#### グローバルゼーション実現委員会

グローバルゼーション実現委員会ではSPAという事業を実施しました。

この事業は、近畿圏の大学生が、社会人とともにSDGs達成のアイデアを構築し、共感者を増やし巻き込みながら、共に実践していくという事業です。

DAY1では世界における課題について、社会起業家から学ぶソーシャルビジネスについて学びました。

今回はカンボジア支援で様々な取り組みを最前線で行っているNPO法人グローバルジャンゲルの森さんにお越し頂き、カンボジアバーチャルスタディツアーや経営者×学生グループピング、ソーシャルビジネスの今についてお話しして頂きました。

DAY2では企業と共にアイデアを創るアイデア発想DAYと称しワークショップ中心のプログラムで社会課題解決の為にアイデアを経営者の方々と一緒に発掘しました。

DAY3では実際にグループ毎にアイデアをブラッシュアップ・実行に移す一ヶ月でした。期間中には、アイデアブラッシュアップやプロによるプレゼンテーション講座等のコンテンツを受講できました。そして最終日にはアイデアコンテスト&企業×学生の大交流会が開催されました。

世代の違う学生と経営者が出会い、今までのアイデアを多種多様な業種の経営者に話してアイデア実現に向けて協力者をたくさんつくる大会でした。

感想として学生の中でもしかり考えを持っていて積極性があり、一度決めた考えは曲げない頑固な学生や自分の得意分野の考えを発表するなど、一社会人としてやる気のある学生を見て刺激を受けました。

## 作 麼 生 ~ふあみりいーダイアリー~

今号、インタビューをさせていただくのは入会三年目の谷口肇君です。会社名の由来であるONE by ONEのように、一つずつ、一歩ずつJC活動を学び、次世代を担うメンバーとして活躍が期待されています。

○はじめに家族や会社のことについてお聞きできますか。

谷口 五大家族(自分・妻・長男・長女・次女)で、仲良く賑やかに、大自然の中でのびのびと生活をしています。

会社は平成二十八年に開業し、従業員さん四人と塗装全般の仕事を行っています。最初はFRP工場で働き、塗装屋さんで五年程修業を積み、絵を描くことが好きだったこともあり、京丹波町で独立をしました。

○コロナ禍での仕事の影響などはありましたか。

谷口 仕事が特別減ったと言ったことはありませんが、観光業に影響が出ています。最初はFRP工場の塗装などは減ったように思います。しかし、会社も何もしないと成長は望めないなので、新規顧客開拓の営業など努力をしています。

○そろそろJC活動について。組織改革して欲しいところや、改善できるところではと思われることを教えてください。

谷口 様々な会議運営に参加させてもらいましたが、時間の無駄をなくすようにして欲しいです。会議は時間を決めて、細かい指摘などに時間を費やさずに効率を図られればと思います。そうすれば、自分の時間が増えて、筋トレや絵を描く時間が出来ます。

○谷口君がJCをされてから成長を感じることや、従業員(内藤・福山)さんのJC評をお聞かせください。

内藤 JC活動と仕事で忙しくなっているのは感じます。塗装の仕事は個々に仕事が区別されているので、自分たちの仕事の段取りは変わらないですし、社長しか出来ない仕事もあります。そのなか調整をしながらJC活動をされているのが凄いです。

JC評は善し悪しだと思いますが、仕事の繋がりは広がっていると感じますが、良い噂もあまり聞かないのが正直なところです。

○従業員さんから見ると社長の凄いとこはありますか。

福山 行動力があり、勢いもあってカッコイイです。寂しがり屋の一面もあります。仕事も効率よく指導してもらえ勉強になります。

○谷口君から従業員さんや従業員さんに一言お願いします。

谷口 いつも頑張ってくれてありがとう!!!!!!

○従業員さんから一言お願いします。

内藤 一緒に努力して会社を大きくしましょう。そして、給料もあげてね(笑)

福山 遊びも仕事も一緒に頑張りますよ。



## 仙人掌

しあわせってなんだろう。そんなコマーシャルがあったが、千差万別、価値観も多種多様、私たちはコロナ禍の中で懸命に生きていくことは、困難なことかもしれない。でも、社会はコロナ禍以前に戻るのか、いやそれはない、新たな価値観や多様性であり、今後どのように生きていくのか、どちらにせよ厳しい現実である。若者の敵は、いつも社会の体制や旧来のしがらみかもしれない。すべてをぶち壊し、乗り越えていくのは、勇気と情熱なのかもしれない。いにしえに学び、未来を創造する。簡単なことかもしれないが、継続は力である。昔と今、なにが違うの、違わない、そんな当たり前を先に気づきを得た人間だけが、成功者なのかもしれない。

亀岡青年会議所は創立四十周年を迎える。先達に感謝するとともに、我が道をわがままに歩いてほしいものだ。失敗を恐れなくてほしい。失敗のない人間などいない、失敗の数だけ苦勞し研鑽を積むものなのだ。恐れなくて前を見て進んでほしい。そこには、明るい社会が待っている。成功者を育成することが目的ではない、ひたすらに、社会をよくする青年を育てるのではないだろうか。私たちに敵はなく、自分自身こそが根本なのである。

頑張れではなく、ともに頑張ろう、大いなる大志を抱いて、前進あるのみ。